

ブルガリア 書道体験「筆で書いてみよう！」

2009年4月、バルカン半島の文化財赤十字活動の一環として、ブルガリアの首都ソフィア市に「平山郁夫センター」が設立されました。画伯の作品に感銘を受け、文化遺産保護活動を通じた平和への祈りに共感したブルガリア人の方々が生前の平山郁夫氏と直接連絡を取って開設に尽力され、美術に関する一連の功績をブルガリアに広げる活動を行っているそうです。「Centre Ikuo Hirayama」についての情報はこちら。



<http://www.cih.bg/index.html>
<http://cih-sofia.blogspot.com/>

☞英語です。

☞こちらは最初の記述はブルガリア語ですが、下に進むと英語になっています。

この「平山郁夫センター」の美術教育の拠点となり、日本と交流を持っている学校があります。ソフィア市の公立芸術学校の一つで、美術や音楽、演劇などの専門クラスもありますが、センターを通してこの学校の子もたちと日本の平山郁夫絵画教室の生徒が絵の交換をしているとのこと。また校内にはセンターのサポートにより「平山郁夫美術アトリエ」という教室も開設されました。ブルガリア国内ではこの他、2010年に黒海沿岸のヴァルナ市にも同様の拠点校ができました。



書道セットを前に
まずは説明を聞きます。

このソフィアの芸術学校に本プログラムが関わったのはちょうど1年前の2010年2月。在ブルガリア日本大使館広報文化班が行う「教育広報」の一環としてボランティアが折り紙ワークショップを行ったことがきっかけでした。その後も日本文化に非常に関心が高く文化紹介に熱心な教員（ショートプログラムで2週間日本に滞在したこともあるそうです）が窓口となり、ボランティアと情報交換を続け、2010年5月に和風や折り紙の紹介のため対象学年を変えて3回のワークショップを実施し、11月には当地の「家族の日」にちなんで日本の年中行事をプレゼンテーション、そしてボランティア最後の訪問となる2月17日には3名のボランティアが書道の指導をしました。



漢字クイズ【象形文字編】



いざ、書道に挑戦!!

書道は道具に限りがあるため事前に希望者を募ったところ、6年生から10年生までの20数名と教員3名が参加しました。この日はボランティアが手分けをして書道セット30組を運んだおかげで、生徒は一人が一つのセット（筆、硯、文鎮、下敷き）を割り当てられ、ワークショップを体験しました。

まずは書道を知ってもらうため、ボランティアが書道の歴史や日本の学校での書道の位置づけなどを説明しました。次に象形文字の漢字クイズで楽しく学ぶことによって日本の字に対する興味も高まったところで、道具の紹介があり、

その後姿勢や筆の持ち方など書道に関する一連の動作を教わったらいよいよ体験開始です。

お手本の漢字には書き順が記してあって、漢字を知らない生徒たちにも上手に書けるよう工夫されていました。ほとんどの生徒は一つの漢字を何度も練習するというよりも、いろんな漢字を書くことに挑戦することを楽しんでいました。人気があるのは「龍」という字。東洋の伝説のドラゴンには計り知れない魅力があるようです。

書道実施にあたり、在ブルガリア日本大使館からは不要になった新聞紙をたくさんいただきました。子どもたちは日本語の新聞にも感動して作品とともに大切に持ち帰ります。ボランティアとしては教室セッティングの反省もありましたが、事前準備の工夫が奏功し、生徒たちは皆「素晴らしい経験ができた」と口々に嬉しい感想を言ってくれました。参加者の笑顔と感謝の言葉は道具運搬の苦労も吹き飛ばしてくれます。こうしてまた一つブルガリアにボランティアの成果が刻まれました。



すばらしい作品ができました。